

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第21号

新指定・認定・登録文化財の紹介

さいたま市教育委員会は、平成18年3月30日付けで新たに2件の文化財を市指定文化財に指定し、1件を無形民俗文化財の保存団体として認定しました。また、埼玉県教育委員会は、平成18年3月17日付けで新たに1件を県指定有形文化財に指定しました。平成18年3月2日には、2件の建造物が国登録有形文化財に登録されています。これにより、市指定文化財は440件、国・県指定を含めた総件数は521件となり、この他に、国登録有形文化財は5件となりました（平成18年4月1日現在）。



▲北澤家文書



▲岩槻藩主阿部家の墓

新指定・登録文化財・認定団体一覧

種別	名称・員数	所有者	所在地
市・有形文化財（古文書）	北澤家文書 114点	さいたま市	見沼区盆栽町150
市・史跡	岩槻藩主阿部家の墓	宗教法人浄国寺	岩槻区加倉1-25-1
県・有形文化財（歴史資料）	埼玉県行政文書 7971点	埼玉県	浦和区高砂4-3-18
国・登録有形文化財	細淵家住宅主屋 1棟	個人	南区沼影1丁目
国・登録有形文化財	細淵家住宅長屋門 1棟	個人	南区沼影1丁目
指定名称（種別）	認定団体名	所在地	
砂の万灯（市・無形民俗）	「砂万灯・本村組」万灯保存会	見沼区東大宮7丁目	

市指定有形文化財（古文書） きたざわ けもんじょ 北澤家文書 114点

北澤家は岩付太田氏の重臣で、後に大宮宿開創にも貢献して代々問屋や名主役を勤めた家柄です。近代には現代漫画の創始者ともいわれる北沢楽天（きたざわらくてん）を輩出しています。

この北澤家文書の内容は、大宮宿関係、村政関係、北澤家が本陣や鳥見役を勤めていた紀州鷹場関係に大きく三分されます。このうち大宮宿関係は、大宮宿の概要を記録した文化6年（1809）の「武蔵国足立郡大宮宿七組明細帳」など、中山道日本橋から数えて4番目の宿場である大宮宿に関する基本的な資料です。114点の文書が、近世の大宮宿を物語る基本的で貴重な文書として指定されました。

（さいたま市立漫画会館に保管されています）

＊ちょっと寄り道＊

北澤家文書は中山道の大宮宿に関する江戸時代の資料ですが、同じ中山道に関する資料としては浦和宿の「日浦和宿本陣文書」があり、また、日光御成道に関するものとしては、大門宿の「会田家文書」が、岩槻城下の市に関しては「勝田家文書」があります。

市指定史跡 いわつきはんしゅ あべ け ほか 岩槻藩主阿部家の墓

近世前期の岩槻藩主阿部家の二代にわたる藩主とその母、殉死した家臣の墓と灯籠で、計12基からなります。岩槻区加倉の浄土宗浄国寺の境内に2箇所にわかれていて、本堂脇には阿部家初代藩主正次の墓（五輪塔、高さ約4.3m、150年遠忌に建立）と3代藩主定高の墓（五輪塔、高さ約4.4m）、定高に殉じた家臣小倉與兵衛政光の墓（五輪塔）のほか、3対6基の灯籠（うち2基は幕末の老中阿部正弘が正次の250年遠忌に建立）があります。また、別の一画には、2代藩主重次の後室で3代定高の母・正寿院の供養塔（宝篋印塔、高さ4.7m）もあります。

近世前期の藩主の墓・灯籠がまとまって遺存し、岩槻藩や阿部家の菩提寺としての浄国寺研究の基本的な学術資料として指定されました。

＊その後の阿部家＊

岩槻藩主だった阿部家は、その後1681年に丹後の宮津（現京都府）、1697年に下野の宇都宮（現栃木県）、1710年には備後の福山（現広島県）へ転封となり、幕末まで10万石の家として続けました。幕末には、かのペリー来航の時の老中阿部正弘を輩出するなど、代々幕府の要職に就き、明治維新以後は伯爵となりました。

保存団体の認定 すなまんどろ ほんむらぐみ まんどろ ほ ぞんかい 「砂万灯・本村組」万灯保存会

市指定無形民俗文化財「砂の万灯」の保存団体である「砂の万灯保存会」は、本村組など7組で構成されていましたが、都市化等による生活形態の変化により、12年間八雲神社への奉納を行ってきませんでした。

しかし、7組の筆頭組である本村組は、数年前から活動を再開し、保存会の規約を策定するなど、万灯作成の技術やその保存に努め、昨年度、12年ぶりに7組そろって八雲神社へ奉納する原動力となりました。

（今年は7月22日(土)に見沼区の八雲神社で公開されます）

＊砂の万灯とは＊

八雲神社へ奉納する万灯で、江戸時代に始まったとされ、かつては悪疫退散・農産物の病害虫防除を祈願して7本の万灯が並んでいました。紙の花が連なる24本の竹や、火をともし「一万灯」と呼ばれる箱の上には、弁慶や加藤清正、太田道灌などの人形が建てられる華麗なものです。



▲砂万灯・本村組

県指定有形文化財（歴史資料） さいたまけんぎょうせいぶんしよ 埼玉県行政文書 7971点

明治から戦前期を中心とする埼玉県の行政文書。その内容は、秩父事件などの県の歴史事象にかかわる文書だけでなく、県内の道路・鉄道・河川等に関するものや、過去の市町村合併に関するものなど多岐にわたっています。県の行政組織の変遷や基本政策ばかりではなく、県の政治・社会・経済・文化・教育等のあゆみを解明する上で基本的で、後世に伝えるべき大切な歴史資料として指定されました。

(埼玉県立文書館に保管されています)

国登録有形文化財 ほそぶち け じゅうたくおちや 「細淵家住宅主屋」1棟 ほそぶち け じゅうたくながやもん 「細淵家住宅長屋門」1棟

細淵家は旧沼影村の村長などを努めた旧家です。主屋は関東大震災で前の住宅が倒壊したために、大正15年に建てられたもので、木造平屋、寄棟造の和風住宅。江戸時代の民家に一般的に見られる「田の字型」の間取りをとっている反面、南側をガラス張りにするという開放的な様式です。農村民家が生活変化の中で近代化していく好例と認められた結果です。また、重量感にあふれる長屋門は江戸時代後期の建築です。(南区沼影にある個人宅です。長屋門の外観は、敷地外から見るができます)



▲細淵家住宅主屋



▲細淵家住宅長屋門

＊市内の登録文化財＊

浦和くらしの博物館民家園展示棟として使用している「旧浦和市農業協同組合三室支所倉庫」は、大正8年に小山市に干瓢倉庫として建築された大谷石積み土蔵造。日本料理屋として利用されている「二木屋（旧小林英三家住宅）主屋」「二木屋（旧小林英三家住宅）門及び塀」は木造平屋の和洋折衷住宅で、海軍軍人が昭和12年頃に建てたものといわれています。

※これらの新しく指定された文化財は、他の文化財同様、常時公開されているわけではありません。マナーを守り、文化財の所有者や管理者、近所の方々、他の見学者や参拝者の迷惑とならないよう、お願いします。

TOPIC

●県指定史跡「岩槻藩遷喬館」がオープンしました。

3年間に及ぶ復原解体修理が終了し、「岩槻藩遷喬館」の公開が始まりました。開館時間は午前9時から午後4時30分まで。入場無料で、休館日は月曜日、休日の翌日、年末年始です。詳しくは電話048(757)5110、又は市立博物館（TEL048-644-2322）へお問合せください。

●市指定無形民俗文化財「秋葉ささら獅子舞」の保存会が、財UFJ信託文化財団の助成団体に選ばれました。

秋葉ささら獅子舞の保存団体である「秋葉ささら獅子舞保存会」は、UFJ信託文化財団が行う平成18年度の「永年地域文化の振興に寄与した団体－伝統芸能部門－」に対する助成対象団体に選ばれ、公開のための獅子頭の修理とササラッコが被る花笠の新調費用として助成を受けることになりました。

お知らせ

市内各所で開催されるお祭りに、指定文化財も参加します。また、当課主催の行事も予定していますので、ぜひお出かけください。なお詳しくはさいたま市の Web ページをご覧ください。当課までお問合せください。

期 日	名 称	開始時間	会場又は出発地	内 容 等
7月8日(土)	宿の祭ばやし	13時から	大久保神社 (桜区宿)	大久保神社を出発し、桜区宿地区内を巡行
	神田の祭りばやし	14時から	八雲神社 (桜区神田)	八雲神社を出発し、桜区神田地区内を巡行
7月15日(土)	秋葉ささら獅子舞	10時から	中釘自治会館 (西区中釘)	中釘自治会館を出発し、13時から秋葉神社、16時から三尺坊で獅子舞を披露
	田島の獅子舞	16時から	田島氷川社 (桜区田島4丁目)	田島の夏祭りの宵宮で、3頭の獅子舞を披露
7月16日(日)	駒形の祭ばやし	12時から	須賀神社 (緑区中尾)	須賀神社を出発し、緑区中尾字駒形地区内を巡行
7月22日(土)	砂の万灯	16時から	八雲神社 (見沼区東大宮1丁目)	7基の万灯が勢揃い(15時頃から順次組み立て、祭礼は16時から)
7月23日(日)	浦和まつり	14時から	中山道浦和宿 (浦和区仲町他)	「木遣歌」、祭ばやし、「仲町獅子王祭獅子頭」 「浦和仲町の神酒杵」など
7月31日(月)	氷川女体神社の名越祓え	15時から	氷川女体神社 (緑区宮本2丁目)	無病息災を祈る「夏越しの大祓え」
8月26日(土)	深作ささら獅子舞	16時から	深作氷川神社 (見沼区深作2丁目)	春岡小学校ささら獅子舞クラブの子どもたちも練習の成果を披露
	指扇の餅搗き踊り	18時から	指扇小学校 (西区指扇)	「指扇まつり」で、実際に餅を搗く「真鐘搗き」をはじめとした踊りを披露
8月27日(日)	見沼通船堀開門開閉実演	10時から 13時から	見沼通船堀東縁開門 (緑区下山口新田他)	見沼通船堀東縁開門を使って、東縁用水と芝川の水位差の調節を行う
9月17日(日)	岩槻の古式土俵入り	15時から	篠岡八幡大神社 (岩槻区笹久保)	笹久保地区で偶数年に行われる古式土俵入り子どもたちが独特の振りで土俵入りする
9月28日(木)～ 10月3日(火)	最新出土品展	10時から 21時まで	大宮駅西口共同ビル DOM 1階特設会場	昨年の秋以降、市内各所で発掘した出土品を展示

文化財紹介

— 砂の万灯 — 市指定無形民俗文化財

見沼区東大宮の八雲神社の夏祭りには、悪疫退散、農作物の病虫害防除を願って、7基の大きな万灯が立ち並びます。「砂の万灯」と呼ばれるこの祭は、かつて7月14日の「天王様」の日に、7組に分かれた氏子たちがそれぞれの組の万灯を飾り付け、神社を出発し、ムラ内を担いで渡御したといわれます。その後、電気の普及によりムラ内にも電線が引かれ、万灯の渡御に支障をきたすようになったため、神社境内に並べ立てておくことになったそうです。

万灯は上から、人形、山台、ほんぼり、小幕、八角型花押し、一万灯、鼓、鼓下座、藤棚、大幕、小田原提灯となっており、八角型花押しには、和紙で作った花をつけた長さ3メートルほどの割竹が24本差し込まれています。

6月30日に、八雲神社に注連縄を張ってから、各組では、花を作ったり、万灯に飾る人形を用意したり、万灯を繕ったりと、祭に向けて準備を進めて行きます。奉納日当日は、万灯を組立てて神社に向う組、神社で組み立てる組など様々ですが、境内は華やいだ雰囲気となります。

7組揃わなければ奉納できないという「砂の万灯」、今年は7月22日(土)午後4時までに、7基の万灯が立ち並ぶ予定です。



▲昨年度の様子